

7

特集 スレッドリフト —10人の術者による症例解説—

TESSLIFT SOFT を
用いたスレッドリフト

伊藤康平

聖心美容クリニック 東京院 院長

スレッドリフトが登場してかなりの年月が経ち、さまざまな種類のスレッドが登場してきた。初期の頃は、固定式や非吸収性の糸を使用していた。しかしながら、ダウンタイムが長い割に、それほど長期の効果は認められなかった。近年では非固定式の吸収糸を使用し、より安全にダウンタイムを少なく行うようになってきている。主にN-CogやLFL Anchorといった、カニューラ内にあらかじめコグ付きの糸が設置されているタイプの糸を使用してきた。ここ最近ではTESSLIFT SOFTという、コグ付きの糸をメッシュで包んだ構造をしている糸を主に使用して、よい効果を出している。

私のスレッドリフトの変遷

2004年ごろ、APTOS[®]やWAPTOSといったスレッドリフトが流行りだし、当院でも導入しはじめた時期である。この頃は、スレッドリフトは目新しく、次世代の若返りと期待されていたため、症例数は凄まじいものがあった。当時は実際の長期経過など不明であったが、3年から5年は効果があるといわれていた。糸の入れ方や引き上げる強さを試行錯誤し、あらゆるタイプのスレッドリフトを使用してきた。初期の頃は非吸収糸を側頭筋膜に固定するタイプをメインに使用していた。その後、比較的引き上げ効果が高く引きつれなども起こしにくく気に入っていたのが、SPRING THREAD[®]であった。しかしながら、非吸収性で伸縮性のある構造のためか長期経過で感染を起こす症

例が散見された。しかも糸に沿って感染巣が広がるため治癒も難しいという問題もあった。

近年では、コグ付きの吸収糸がカニューラ内に設置されているタイプを使用することがほとんどである。代表的なもので、N-Cog、LFL Anchor Max、TESSLIFT SOFTなどである。実際、これらのコグ付きの吸収糸を長年使用してみると、非吸収糸の固定式のように術直後の劇的な引き上げ効果は少ないが、数か月後には、両者に引き上げ効果の違いもさほどなくとくに満足度が下がるということもない。持続期間も両者とも6か月から1年程度と大差はない。また、ダウンタイムも格段に短く痛みも軽度なため、クレームの減少、満足度やリピート率の向上につながった。

一般的に、スレッドリフトを希望される方は、ダウンタイムの少なさに魅力を感じている。そのため、痛みや軽度の皮膚のひきつれ、窪みでもクレームになりやすい。現在では、

施術翌日にも仕事に行けるくらいダウンタイムが少なく、気軽にリピートできる方法を重視している。

TESSLIFT SOFTについて

TESSLIFT SOFTはPDO素材であり、コグ付きの糸をメッシュで包んだ構造をしている(図1)。18Gカニューラに入っており糸の長さは約15cmである(図2)。コグは双方向性で、先端から10cmまで付いている。ちょうどカニューラの長さに相当する。末端5cmにはコグは付いていないが、メッシュは付いているので末端まで無駄なく使用する。カニューラの先端は丸く、内出血を起こすことはごくまれである。コグの数は、カッピングタイプで5cmあたり12~15個とやや心許ないが、周囲をメッシュで包んでいるため、予想外に引っ掛かる力は強い(図3)。また、このメッシュ



図1 TESSLIFT SOFT 外観



図2 TESSLIFT SOFT

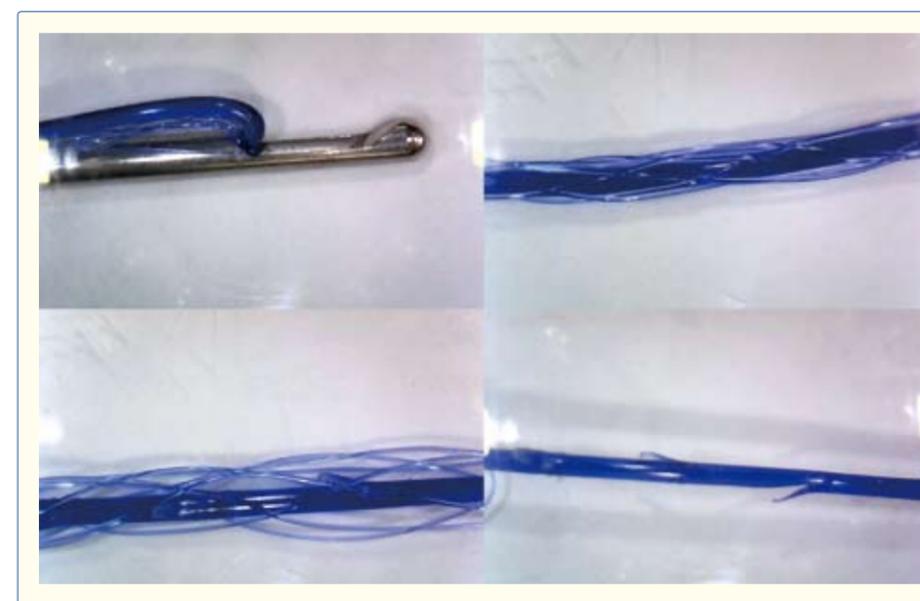


図3 TESSLIFT SOFT 拡大図